

地域資源を生かした保育実践のモデル構築



氏名 田口 賢太郎 助教

所属 社会福祉子ども学科 福祉子ども学専攻

URL <https://www.spu.ac.jp/academics/db/tabid334.html?pdid=304tagu>

研究分野 ・保育学 ・地域に根差した保育実践
・保育の評価 ・保育のベストプラクティス

キーワード 保育, 地域連携, コミュニティ, 保育者養成

研究シーズの概要

近年、乳幼児期の保育・教育への公的資金の投入が社会政策的にも効果的であるとの研究の裏付けを得て、保育への関心が社会的にも高まっています。しかし、一方でその関心の集め方には、保育の意義を数値的な「成果」や個々の子どもの能力の伸長のみ還元してしまいかねないという危うさもあります。

子どもの「生活」の場である保育の現場で生起する「出来事」を、地域社会に位置づけ、その保育実践や子どもの具体的な育ちを「園」内や幼児期だけの意義として完結させず、「地域」や「社会」における意義として捉えなおします。

特色ある「保育」実践が個々の子どもに対してどのような意味をもたらすのかということだけでなく、地域や社会にとってどのような意義があるのか、追究します。

共同研究のご提案

共同研究を通じて

- ・保育の「地域連携」の具体的な在り方を検討し、ベストプラクティスを追究します。
- ・地域の「資源」を生かす保育の取り組みの評価枠組みを確立します。

また、〈保育者養成校〉も「地域」における保育のアクター

の一つです。共同研究を通じては、これまでの

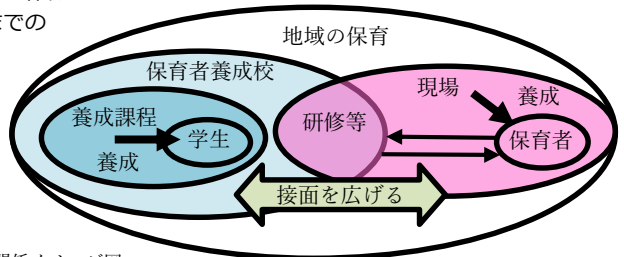
研修（知見の提供）や資格付与としての

保育者養成だけではなく、

地域において「協働する保育」

を駆動する保育者養成校のモデル構築を

あわせて探究してまいります。



▶現状の養成校と現場の関係イメージ図

特定講座のご提案

これまで自治体・保育所等からの依頼を受け、以下のような講演・研修を開催しています。

- 男性の子育て・育児参加
- 記録をもとにした保育の振り返り
- 保育実践の評価

アピールポイント

教育の哲学・思想史研究をバックグラウンドに、保育の具体的な実践や保育者養成のあり方を探究してまいりました。具体的な実践を「方法」としてだけでなく、同時にしっかり「考える」ことを大切にします。